

CSR Report 2019

株式会社光洲産業



目次

- 01 目次 / 編集方針 / 会社概要
- 02 沿革
- 03・04 トップメッセージ
- 05・06 当社の理念
- 07-12 事業案内
- 13・14 CSR ビジョン・CSR 方針
- 15-16 KPI
- 17・18 マテリアルバランス
- 19・20 CSR 重点項目 1：安全
- 21・22 CSR 重点項目 2：人財づくり
- 23・24 CSR 重点項目 3：環境保全
- 25・26 CSR 重点項目 4：コミュニケーション
- 27・28 CSR 重点項目 5：地域社会との共生
- 29・30 CSV 重点項目：リサイクル

会社概要

商号
株式会社光洲産業

代表者
光田 栄吉

設立
1982 年

資本金
1,000 万円

従業員数
204 名
(グループ会社含む：348 名)
2020 年 10 月末時点



①本社
神奈川県川崎市高津区久地 4-10-11

②光洲エコファクトリー 川崎・久地
神奈川県川崎市高津区久地 594-1 外

③光洲エコファクトリー 川崎・宇奈根
神奈川県川崎市高津区宇奈根 759-1 外

④光洲エコファクトリー YOKOHAMA BAY
神奈川県横浜市神奈川区恵比須町 5-12

⑤光洲エコファクトリー 横浜・泉
神奈川県横浜市泉区和泉町 5874-24 外

⑥光洲エコスペース 横浜・泉
神奈川県横浜市泉区和泉町 5881-8

編集方針

報告対象組織
株式会社光洲産業

報告対象期間
2019 年 1 月～ 2019 年 12 月
(※一部対象期間外を含む)

発行時期
2020 年 11 月

参考ガイドライン
環境省
「環境報告ガイドライン」(2018 年版)

お問合せ先

株式会社光洲産業 担当：光田
〒213-0032
神奈川県川崎市高津市久地 4-10-11
TEL：044-822-0795
FAX：044-811-7967
E-Mail：info@koushuu-sangyou.com

沿革

- 1982 年 12 月 神奈川県川崎市に有限会社光洲産業を設立 (川崎市高津区久地 548)
- 1983 年 1 月 川崎市において産業廃棄物収集運搬業及び処分業の許可取得
- 4 月 収集運搬・処分業の営業開始 川崎市高津区久地に中間処理施設設置 (焼却・選別)
- 1985 年 9 月 神奈川県において産業廃棄物収集運搬業の許可取得
- 1989 年 11 月 静岡県において産業廃棄物収集運搬業の許可取得
- 12 月 横浜市において産業廃棄物収集運搬業の許可取得
- 1991 年 5 月 東京都において産業廃棄物収集運搬業の許可取得
- 1992 年 11 月 川崎市高津区久地に本社ビル完成
- 1993 年 8 月 中間処理施設の変更 (焼却・選別→破碎・焼却)
- 1994 年 10 月 埼玉県,さいたま市,川越市において産業廃棄物収集運搬業の許可取得
- 1995 年 1 月 千葉県,船橋市において産業廃棄物収集運搬業の許可取得
- 6 月 横浜市泉区和泉町に横浜積替保管施設設置
- 1996 年 8 月 本社中間処理施設の変更 (破碎・焼却→破碎・選別破碎・選別)
- 12 月 山梨県において産業廃棄物収集運搬業の許可取得
- 1997 年 1 月 栃木県において産業廃棄物収集運搬業の許可取得
- 1998 年 3 月 栃木県において産業廃棄物処分業 (安定型最終処分) の許可取得
栃木県那須塩原市西岩崎に開設
- 2000 年 4 月 横須賀市において産業廃棄物収集運搬業の許可取得
- 8 月 川崎市高津区宇奈根に積替保管施設設置 (分別リサイクル対応型)
- 2001 年 8 月 中間処理 (宇奈根) 施設新設 積替保管施設を中間処理施設へ
(破碎・切断圧縮・破碎分離)
- 2002 年 1 月 ISO14001 認証取得 (本社・中間処理施設)
- 11 月 千葉市,茨城県において産業廃棄物収集運搬業の許可取得
- 12 月 中間処理 (宇奈根) 施設増設 (圧縮・梱包・溶融)
- 2004 年 5 月 安定型最終処分場許可取得 (栃木県那須塩原市戸田に開設)
ISO14001 認証取得 (光洲エコファクトリー 川崎・宇奈根)
- 2006 年 6 月 株式会社に組織変更
横浜市において産業廃棄物処分業の許可取得
光洲エコファクトリー YOKOHAMA BAY(総合リサイクルセンター) 新設
- 12 月 宮城県において産業廃棄物収集運搬業の許可取得
- 2007 年 1 月 仙台市において産業廃棄物収集運搬業の許可取得
- 5 月 群馬県において産業廃棄物収集運搬業の許可取得
- 2008 年 7 月 愛知県において特別管理産業廃棄物収集運搬業の許可取得
- 2009 年 3 月 滋賀県において産業廃棄物収集運搬業の許可取得
- 11 月 高知県において産業廃棄物収集運搬業の許可取得
- 2010 年 1 月 兵庫県において産業廃棄物収集運搬業の許可取得
- 3 月 神奈川県,相模原市において特別管理産業廃棄物収集運搬業の許可取得
- 4 月 横浜市,横須賀市,東京都において特別管理産業廃棄物収集運搬業の許可取得
- 5 月 川崎市において特別管理産業廃棄物収集運搬業の許可取得
- 10 月 茨城県において特別管理産業廃棄物収集運搬業の許可取得
- 2011 年 12 月 東京都 優良性基準適合認定制度「産廃エキスパート (収集運搬業)」認定
- 2013 年 3 月 ISO14001 認証取得 (光洲エコファクトリー YOKOHAMA BAY)
- 2015 年 8 月 OHSAS18001 認証取得
- 2017 年 3 月 光洲エコファクトリー YOKOHAMA BAY 施設増設 (選別)
- 2020 年 6 月 光洲エコファクトリー 横浜・泉 新設

安全を最優先し、
高品質のリサイクルを
追い求める。

株式会社光洲産業
代表取締役

光田 栄吉



今回で2冊目となる、2019年度のCSRレポートを発刊することができました。このレポートには、当社が廃棄物事業を行うことで経済や社会、環境に与える影響に対して責任を持ち、その影響に対応していくCSR重点項目、事業を通じて社会課題の解決を目指すCSV重点項目についての活動をまとめています。

リサイクルを追い求める

1982年に創業し、循環型社会を目指す廃棄物の処理・リサイクルを行って参りました。エリアとしては神奈川県を中心とした関東圏の建設工事で発生する廃棄物の収集運搬から処理処分の一貫した処理を行っています。

長年、廃棄物処理に携わっている中で、当社は「リサイクル」を大切なキーワードとしています。工場に搬入いただく廃棄物は「資源」であり、いかに資源として活用できる処理を施すことができるかが社会から求められており、当社のミッションであると考えています。

リサイクル率向上はもちろんですが、2019年度からはリサイクル品質の向上も重点目標に据えました。廃棄物の品目

ごとに素材や特徴を学ぶ機会を設け、常に具体的な分別方法を見直し、究極の選別技術を目指しプラント処理フローの見直しを図っています。

この「リサイクル技術の探究」は10年以上前から「リサイクル研究会」を設けて進めており、今では社員自らが考え、積極的に意見を出してくれます。リサイクルを生きがいとし、リサイクルが好きな仲間がいるからこそ実現でき、これからも企業文化としてずっと続いていくと実感しています。

より多くの資源を社会に還元し、様々な場所で活用いただけるよう、社員一丸となって、誠実に・真剣に取り組んでいきます。

すべてにおいて「安全」を最優先する

本レポートの報告対象期間ではありませんが、2020年2月頃より世界を襲った新型コロナウイルス感染症の影響により、日本国内でも経済活動の大きな変化が起きました。緊急事態宣言による企業活動の停滞や働き方の変化、新しい生活様式の推奨とともに、人と人とのコミュニケーションのあり方の変化など、その分野は随所に広がります。今まで当たり前と思っていたことが短期間で当たり前ではなくなりました。

この渦中で胸に誓ったことが一つあります。それは、どんなことがあっても、絶対に会社を守っていくことです。私たちの行っている廃棄物処理は、社会インフラの一端を担っています。感染症などのリスクがありながらも、廃棄物を円滑に適正に処理できることで、社会経済活動を支え安心した生活を送ることができると考えています。

動脈を支える静脈の役割がこの業界にはあり、経済を支え「資源の循環」を生み出す起点でもあります。止まることない事業運営は、当社の社会的責任であり、持続可能な会社や社会の実現を目指すCSRの重要性を改めて認識しました。

持続可能な会社になっていくために、CSR方針を掲げて活動を推進しています。この度の新型コロナウイルスの影響も踏まえて、重点項目の1つ目である「安全と健康の確保」はやはり最優先課題であると確信しました。会社を守っていく事は、第一に社員とそこそご家族の生活を守っていく事です。当社独自の安全教育プログラムや各部門ごとの安全対策は継続して行っており、感染症予防を踏まえた手順書の見直しやBCP（事業継続計画）策定を今後も進めてまいります。

パートナーシップでCSR経営を推進していく

2015年に設立した安全体感教室（光洲エコファクトリー YOKOHAMA BAY 内）は、大変ありがたいことに、お客様の教育コンテンツの1つとしてもご活用いただきました。私たちの安全に対する想いにご賛同いただいたおかげだと感じます。業務内容は違えど、現場を共にするお客様とのパートナーシップを強めた活動へと進化しました。このパートナーシップによって、より良い未来が創られていくと感じています。

このCSRレポートには、当社の大切にしている考え方が詰まっています。お客様や協力会社様、地域の皆様、社員に是非ご一読いただき、当社へのご意見と皆様の想いをお聞かせいただきたく存じます。皆様とのコミュニケーションが今後の経営やCSRに必要不可欠です。

皆様の声に誠実に向き合い、それを活かすことで、多くの方から共感、信頼される光洲産業を目指していきます。

ブランドコンセプト

リサイクルが好きです。

ステイトメント

私たちはリサイクルが好きです。
好きだから、徹底して追求します。

多様な資源の収集・運搬・選別について、
究極の効率化のために改善を重ねる。
新しい手法を常に研究して
日夜、プラントの高度化に励む。

現場と工場が密接に連携しながら
すべての社員があくなきリサイクル率の向上に
全身全霊で取り組んでいます。
なぜなら、リサイクルは楽しいから！

仲間たちとの飽くなき挑戦が
社会のため、地球のため
そして未来のためになるなんて
これほど素敵な仕事はない。
私たちはひそかにそう思っています。

リサイクルが好きです。
大好きです。

経営理念

当社は環境産業に携わるものとして高い志を持ち「正しく」
「強く」「誠実な」そして世に強く必要とされ、働く人達が
『いい会社』と実感出来る企業を目指し活動してまいります。

経営方針

一、誠実さを基本理念とし社会の環境保全、資源循環型社会形成並びに地球温暖化防止に貢献する

誠実さをもって業に携わり法遵守のもと適正な処理処分により社会の環境を保全すること、廃棄物の処理技術及び処理システムの向上を目指し限りない研究・開発・工夫に努め、リサイクルを推進し資源循環型社会を形成すること、並びに地球温暖化を防止することこそ我々処理業者に授けられた使命であり、ここにわが社の社会的存在価値が求められるものである。

一、常にお客様を第一に思い感謝の心で接する

お客様いらしてこそ我々の事業が生まれ成り立ち、一人一人の生活が支えられるものである。常にお客様を第一に思い、お客様中心に物事に対処し、感謝の心を持って接することであり、お客様に信用され頼られる仕事をする事、並びに心に通じるサービスを提供し、満足・喜び・感動を得られるようにすることは我々の最優先課題である。

一、働く人たちが皆が自分たちの会社と思い、常に現状の上を目指し限りない発展を遂げる

会社は働く人たち皆と、その家族の明るく豊かな生活の安定と向上を目指し存在するものであり永続させることが至上命題であるという考えのもと、力強く勝ち残る会社にしてゆかねばならない。そのためには皆が自分達の会社を愛し、あらゆる物事の考え方・行動をこうすることが会社のためになるか、そうでないかということに判断基準を置き、責任と自覚に満ちた行動をとるということである。

一人一人が会社の力となって学び知恵を振り絞り、自分を磨くという心意気を持って仕事をする事により決して現状に満足することない進化し続ける成長発展企業を目指す。

一、働く人たちが皆が仲間意識を高め連帯感の強い会社を目指す

会社が良くなるためには、働く人達皆が互いに尊重し合い、仲間意識が強く、組織力が高い、一体感を持った明るく元気で活気に満ちた仕事を創造することにより、意思疎通の高い協力協調と一致団結できる社風を形成し、皆で『いい会社』と実感出来る職場を実現する事である。

一、人づくりこそ企業発展のすべてである

「企業は人なり」と言われるように、人づくりのシステムをつくり充実させることにより、働く人達皆の考え方・行動が変わり、無限の可能性を実現できるものである。まずは人間性を高めることであろう。誠実で謙虚な心を持ち、道徳をわきまえ礼儀を重んじ、互いに思いやりを振りまき感謝の心で接することであり、自分中心から相手中心そして他人責任から自分責任の考えに基づき「まず自分から」を実践する事である。そして一人一人が担当業務能力を向上させ、それぞれに与えられた目標課題に対し成果という結果を出せる人財としての活躍を期待するものである。

一、安全と健康の確保は会社経営の基盤である

会社にとって一番大切なことは、働く人達とその家族の幸せを守り続けることであり、無事故・無災害・無病であることは、それがための絶対的条件である。

一、社会的公器としての役割を果たし社会的存在価値を高める

会社が永続し続けるためには世に強く必要とされることである。それがためには地域との交流を深め和を保ち、幅広い社会貢献・福祉活動に努め、社会に対して感謝の心を決して忘れてはならない。

事業案内 収集運搬事業



廃棄物の種類・量に適したコンテナやフレコンバッグを現場に設置し、効率的に収集します。また、ビル内装工事などの少量廃棄物の小口回収が可能な1.5tパワーゲート車から、一度に最大40㎡もの運搬が可能な大型車まで多数保有しており、排出状況や現場工程に合わせて最適な車両で収集運搬します。

収集運搬業許可内容

関東圏を中心に産業廃棄物及び特別管理産業廃棄物の収集運搬許可を取得しております。また、積替保管の許可も取得しており、より効率の良い運搬が可能です、環境影響も最小限に留められます。

許可品目	産業廃棄物	汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、ガラスくず等、がれき類
	特別管理産業廃棄物	廃石綿等

許可取得エリア

- ：産業廃棄物収集運搬業許可
- ：産業廃棄物＆特別管理産業廃棄物収集運搬業許可



積替保管	川崎市	光洲エコファクトリー 川崎・宇奈根	廃プラスチック類、ガラスくず等、がれき類 (以上3種類は石綿含有産業廃棄物に限る) 保管面積：41.3㎡ 保管上限：126㎡
		光洲エコファクトリー YOKOHAMA BAY	廃プラスチック類、ガラスくず等、がれき類 (以上3種類は石綿含有産業廃棄物を含む) 金属くず、汚泥、廃油 保管面積：250.1㎡ 保管上限：392.198㎡
	横浜市	光洲エコファクトリー 横浜・泉	廃プラスチック類、ガラスくず等、金属くず (以上3種類は水銀使用製品産業廃棄物を含む) 保管面積：1.255㎡ 保管上限：1.12㎡
		光洲エコスペース 横浜・泉	廃プラスチック類、ガラスくず等、がれき類、金属くず、紙くず、木くず、繊維くず (廃プラスチック類、ガラスくず等、がれき類は石綿含有産業廃棄物を含む) (廃プラスチック類、ガラスくず等、金属くずは水銀使用製品産業廃棄物を含む) 保管面積：556.62㎡ 保管上限：971.6㎡

保有車両

コンテナ車

〔保有台数〕

2t コンテナ車： 3台
3t コンテナ車： 15台
4t コンテナ車： 24台
8t コンテナ車： 4台
大型コンテナ車： 11台



2t コンテナ車



4t コンテナ車



大型コンテナ車

ダンプ車

〔保有台数〕

2t ダンプ車： 10台
4t ダンプ車： 19台
大型ダンプ車： 10台



2t ダンプ車



4t ダンプ車



大型ダンプ車 (40 m)

ユニック車

〔保有台数〕

3t ユニック車： 18台
4t ユニック車： 5台
8t ユニック車： 7台



3t ユニック車



4t ユニック車



8t ユニック車

その他車両

〔保有台数〕

1.5t パワーゲート車：1台
大型チップ車： 7台
フルトレーラー車： 3台
セミトレーラー車： 1台



1.5t パワーゲート車



大型チップ車



セミトレーラー車

保有コンテナ等

25 ㎡コンテナ

2,400×6,200×2,000



3 ㎡コンテナ

1,615×1,915×1,372



エコパレット

1,000×1,000×1,340
※キャスター付きにより移動可



8 ㎡コンテナ

2,100×3,865×1,455



2 ㎡コンテナ

1,120×1,915×1,372



1 ㎡フレコン



4 ㎡コンテナ

1,670×3,000×1,160



1 ㎡コンテナ

720×1,615×1,372



メッシュパレット



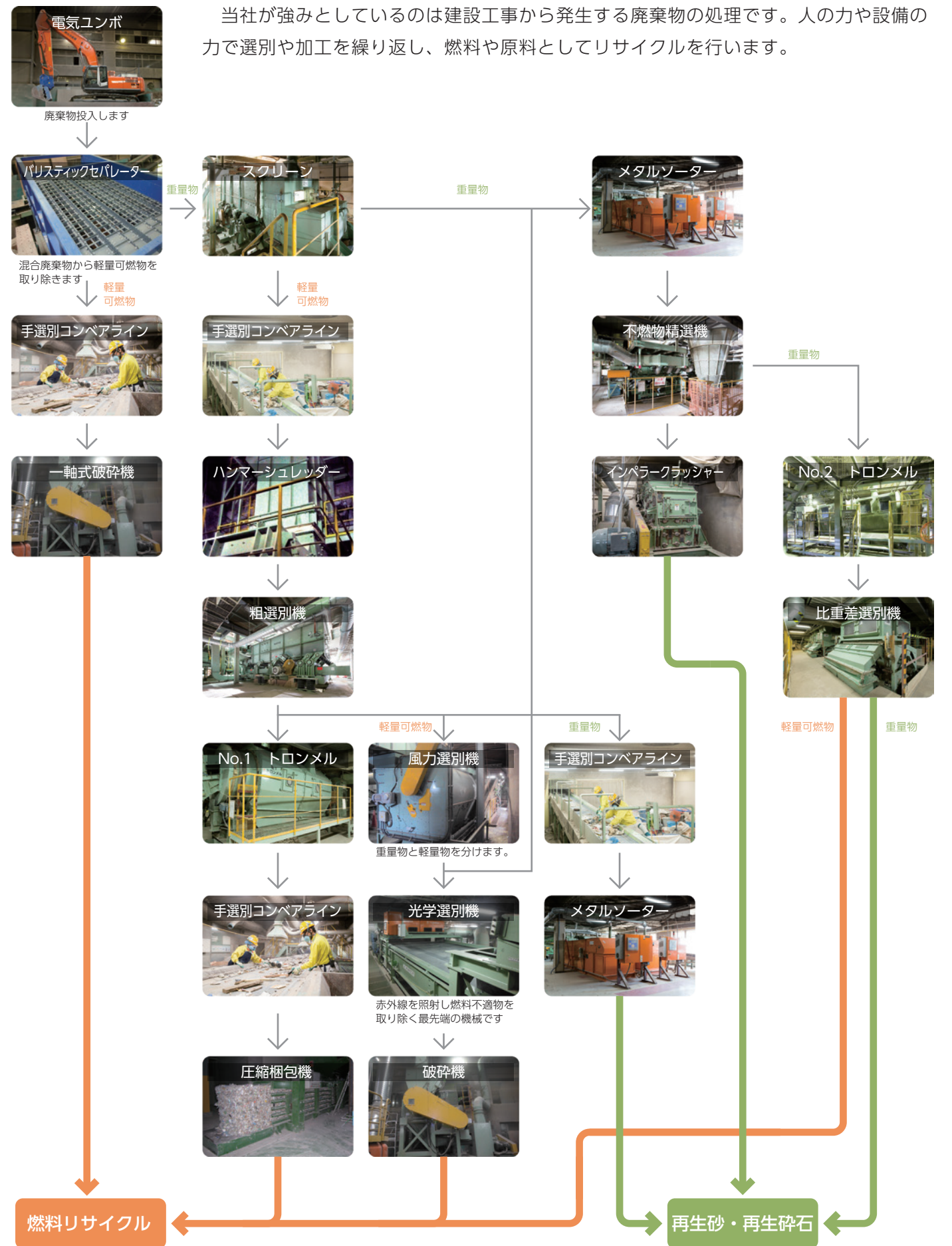


事業活動に伴い発生する産業廃棄物を適正かつよりリサイクルできるよう、中間処理を行います。リサイクルするためには、いかに素材別に分けることができるかが重要です。当社では様々な選別を行いリサイクルを追い求めることで、資源循環の起点を目指します。

処分拠点

光洲エコファクトリー YOKOHAMA BAY	光洲エコファクトリー 横浜・泉
	
許可品目	許可品目
廃プラスチック類・紙くず・木くず・繊維くず 金属くず・ガラスくず・がれき類	廃プラスチック類・紙くず・木くず・繊維くず 金属くず・ガラスくず・がれき類
処分方法	処分方法
破碎、選別、切断、圧縮、溶融	選別、切断、圧縮、溶融
光洲エコファクトリー 川崎・久地	光洲エコファクトリー 川崎・宇奈根
	
許可品目	許可品目
廃プラスチック類・紙くず・木くず・繊維くず 金属くず・ガラスくず・がれき類	廃プラスチック類・紙くず・木くず・繊維くず 金属くず・ガラスくず・がれき類
処分方法	処分方法
破碎、選別・破碎、圧縮・梱包	破碎、破碎・分離、圧縮・梱包 破碎・圧縮・梱包、溶融

廃棄物の高性能精選別フロー

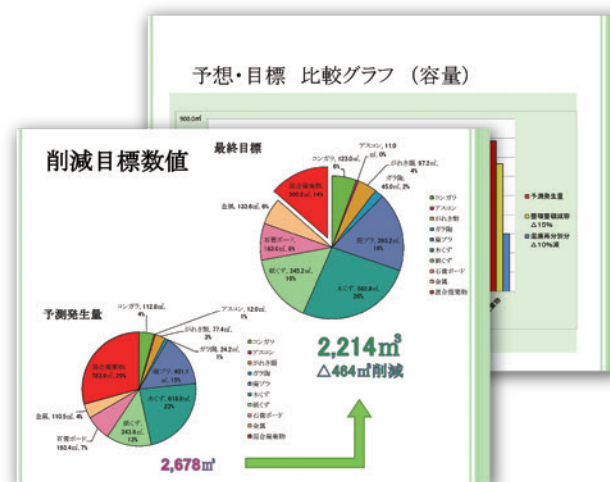




廃棄物を適正かつ有効に処理するには、発生段階から意識して行動することが重要です。
お客様と共に循環型社会を構築していくために、現場での分別サポートを行っています。

工事の段階に合わせたサポート事例

着工前



分別提案

建物概要などから、廃棄物予想排出量の算出を行い、その上で削減計画の作成や分別ヤードのご提案を行います。また、工程ごとの分別種類もご提案させて頂き、現場での廃棄物コントロールの基礎作りをサポートします。

工事中

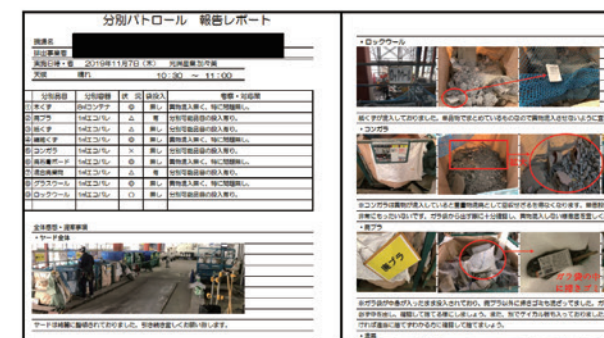


産廃ヤード

現場での分別活動がスムーズに進むよう、着工時に分別種類に合った産廃ヤードを設置します。

合わせて、分別種類ごとに専用分別看板を作成し提供します。特に分別で間違えやすい物に関しては、廃棄された実物を使用したサンプル付看板を設置します。

維持管理



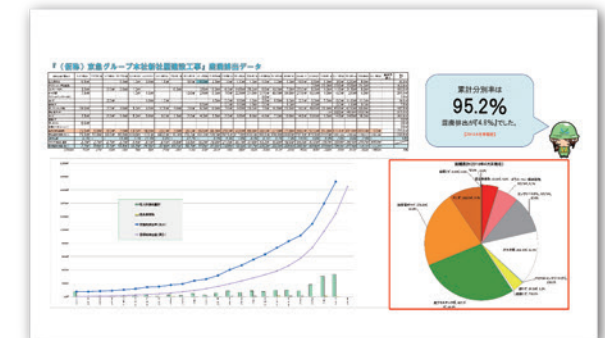
分別
パトロール

定期的に現場を巡回する「分別パトロール」を実施し、各現場の産廃ヤードが適正に分別されているかをチェックします。その結果は報告書にまとめ維持管理に活用いただけてます。

現場説明会

現場作業員の皆様を対象に現場説明を行います。実際に廃棄される混合廃棄物で分別デモンストレーションを行うなど、即実践できる分別のポイントを説明します。

完工後

実績
レポート

実際の廃棄物の発生状況・分別比率・発生組成割合など、ご希望のデータを管理し、報告致します。品目別発生数量や分別率、発生量比管理等、今後の現場におけるマネジメント管理に貢献します。

廃棄物管理勉強会

お客様の社内向けに、廃棄物の知識や法律、分別の意義、適正処理の流れなど、排出事業者として必要かつ重要な事項をお伝えする勉強会の講師派遣を行っています。現場での分別を推進すると同時に、産業廃棄物の法令遵守体制強化のためにもご活用頂いています。



分別グッズの販売

分別のやり方や管理方法を誤ると、不適正処理に繋がる可能性や排出事業者としてのリスクが高まります。現場分別を適正に実行・運用していくために、分別ハンドブックや専用回収容器等を制作・販売しています。



分別 HandBook



フレコンバッグ



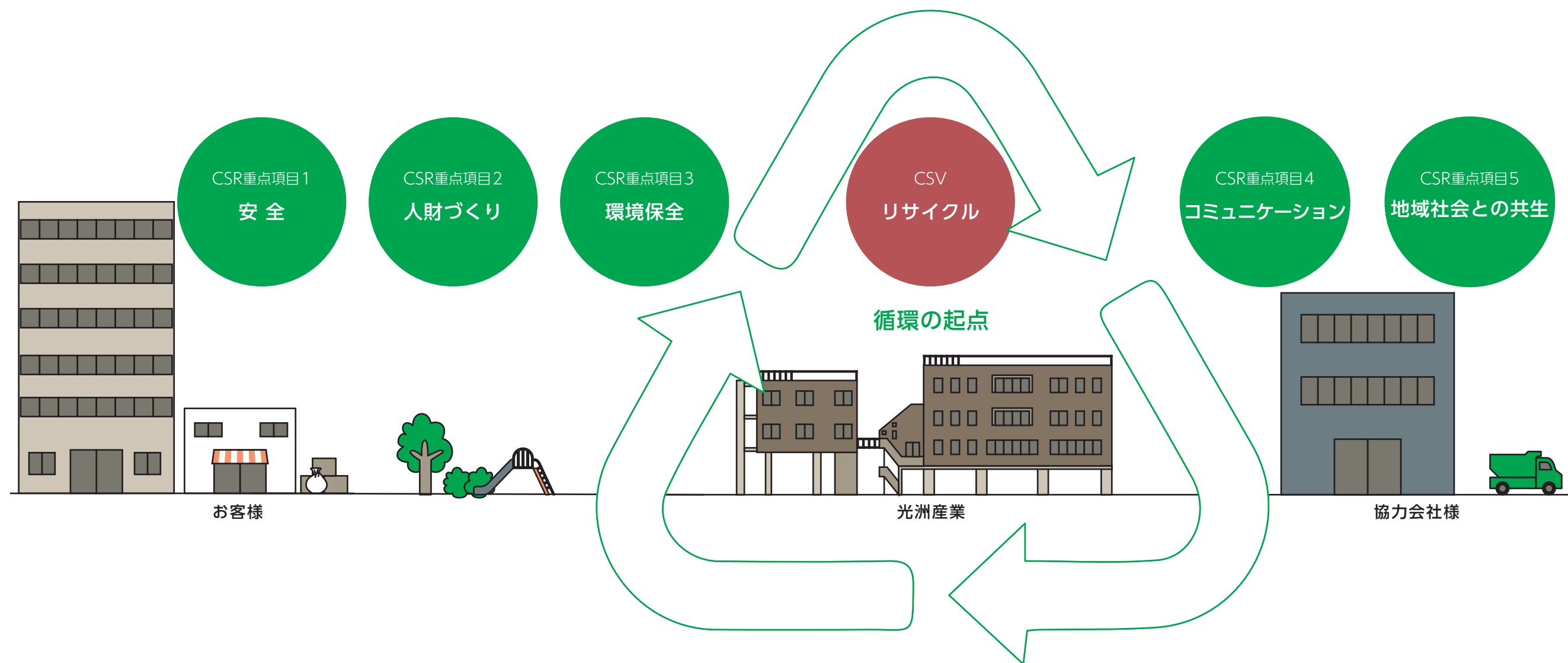
テナント工事向け
ミニ回収袋



水銀使用製品（蛍光管）
専用分別容器

|| ビジョン実現に向けたCSR・CSV重点項目

社員一人ひとりの日々の活動の中で、持続可能な発展を考え、良好な循環を生み出していくために、5つのCSR重点項目と1つのCSV重点項目に取り組んでいきます。



業界内、いい会社 No.1を目指しています

経営理念等が強固な基盤

良好な循環を創造し、社会的に必要な会社へ

社員が「自分たちの会社」と思い行動

社員が働く幸せ・やりがいを感じ、活気あふれる会社へ

様々なステークホルダーとの
連携・信頼・調和を構築

安全・安心・安定感を持ち、夢が叶えられる、魅力ある会社へ

CSR・CSV活動は、KPI（Key Performnace Indicators：重要業績評価指標）を設定し管理しています。KPIにおける活動結果の評価・分析と見直しを毎年行い、社会情勢に合わせた活動を推進していきます。

評価方法 ◎：達成率 120％ ○：目標達成 △：取組実施・目標未達 ×：取組未実施

重点項目	区分	KPI	取組内容	担当部門	2019 年度			2020年度 目標	2021年度 目標	2022年度 目標
					目標	結果	評価			
CSR 重点項目 安全	予防装置	安全教育プログラム 受講人数	(1) 隔週土曜日に安全教育プログラム開催 (2) 体感案内員を教育し、実施体制の強化 (3) 定期的なプログラムの見直し	安全教育プログラム 委員会	140 名	96 名	△	160 名	170 名	180 名
		安全パトロール実施件数	(1) リスクアセスメントの実施 (2) 安全衛生パトロールの実施 (3) 安全衛生委員会にて現状の共有と改善箇所の決定 (4) 運転特性を見極めた安全運転指導	収集運搬部門 中間処理部門 営業部門	32 回	31 回	△	32 回	32 回	32 回
	車両運転に おける安全	車両事故発生件数	(1) 乗車前の日常点検と月次の車両点検実施 (2) ヒヤリハットをグループミーティングで共有・検証実施 (3) 月次ミーティングにて安全運転教育実施 (4) 過積載防止活動の実施 (5) 事故再発防止の現場同行 (6) シミュレーターを用いた定期運転診断の実施	収集運搬部門 工場部門 営業部門	前年比 30％削減	前年比 30％増	△	2018 年度比 30％削減	前年比 10％削減	前年比 10％削減
	危機管理	BCP（事業継続計画） の策定	(1)BCP の策定 (2) 必要な設備改善の実行 (3) 社員への周知	事業統括本部	BCP の策定	BCP 策定に向けた 計画策定	△	BCP 策定 必要な設備 改善等の実行	社員への周知 とトレーニング	BCP 運用 と改善実施
CSR 重点項目 人財づくり	社員の能力開発	研修予算消化率	(1) 部署別に年間の研修受講計画を策定 (2) 定期会議にて進捗確認しながら適切な受講を促進 (3) 石綿取扱作業の特別教育（安全教育プログラム）	事業統括本部 人創り教育委員会	100％	80％	△	100％	100％	100％
	社会に求められる 人材の育成	理念教育受講人数	(1) 新入社員研修にて理念教育の実施 (2) 安全教育プログラムと連動した理念教育の実施 (3) 部門に応じた理念教育の実施	事業統括本部 人創り教育委員会	全社員	96 名	△	全社員	全社員	全社員
		各教育プログラムの 構築・運用	(1) 新入社員教育プログラムの構築 (2) 階層別教育プログラムの構築 (3) 試行運用実施し、結果を分析しながら改善	事業統括本部 人創り教育委員会	プログラムの構築	プログラム構築完了	○	プログラムの 運用	各プログラムの 運用定着	各プログラムの 改善
CSR 重点項目 環境保全	環境影響低減	騒音値	(1) 環境作業手順の勉強会開催 (2) 環境作業手順に沿った実施訓練	中間処理工場	規定値以下	規定値以下	○	規定値以下	規定値以下	規定値以下
	エネルギーの 適正使用	売上高原単位 軽油・ガソリン使用量	(1) 自社車両アイドリングストップ・エコドライブの推進 (2) 自主管理基準の作成 (3) 自主管理基準における順守監視の実施 (4) 営業車をハイブリットカーに更新	収集運搬車両 営業車両	前年比 1％削減	4％削減	○	前年比 1％ 削減	前年比 1％ 削減	前年比 1％ 削減
		搬入量原単位・電気使用量	(1) 全事業所の LED 照明化計画 (2) エアコン設定温度ルールの遵守 (3) 省エネ啓発ポスターを掲示	設備管理課	前年比 1％削減	7％ 削減	◎	前年比 1％ 削減	前年比 1％ 削減	前年比 1％ 削減
	リデュース	一般廃棄物排出量	(1) 事務所から発生する紙くずの分別 (2) コピー用紙の使用削減・電子データの積極活用	本社事務所	6 袋以下 / 月	平均 6 袋 / 月	○	6 袋以下 / 月	6 袋以下 / 月	6 袋以下 / 月
	環境配慮製品の 使用	グリーン購入 適合製品比率	(1) 現状数値の算定 (2) 事務備品のグリーン購入製品導入検討 (3) 工場備品のグリーン購入製品導入検討	財務人事課	基準値設定	設定完了	○	前年比 1％ 向上	前年比 1％ 向上	前年比 1％ 向上
	環境保全啓発	工場見学来場者数	(1) 排出事業者様へお声がけし視察来場いただく (2) 地域の皆様を対象としたオープンファクトリーの定期開催	営業部門 CSR 委員会	前年比 1％向上	16％向上	○	前年比 1％ 向上	前年比 1％ 向上	前年比 1％ 向上
		廃棄物研修会の開催数	(1) 排出事業者様向けの廃棄物研修メニューの見直しと改善・実施 (2) 新築工事向けの分別説明会実施	営業部門	25 回	29 回	○	30 回	35 回	40 回
CSR 重点項目 コミュニケーション	お客様・協力会社との コミュニケーション	アンケートによる満足度	(1) 「講演と懇親の集い」の開催時にアンケート実施 (2) 当社視察時にアンケート実施 協力会社会でのアンケート (3) アンケート結果を社内で共有し、改善実行	営業部門 工場部門 CS 委員会	クレームゼロ	クレーム有	△	クレームゼロ	クレームゼロ	クレームゼロ
	地域社会との コミュニケーション	加盟団体活動延べ参加人数	(1) 加盟団体の担当者を選任 (2) 定期活動への参加	全部門	32 回	52 回	◎	32 回	32 回	32 回
	社員との コミュニケーション	社内レクリエーション延べ参加人数	(1) 福利厚生委員会でのイベント企画・運営 (2) 部門長と協力し、社員の参加を啓発	福利厚生委員会	400 名以上	161 名	△	400 名以上	400 名以上	400 名以上
		社内報の発行回数	(1) 広報委員会にて定期的に社内報を発行 (2) 作成後部門に応じた配布を実施	広報委員会	6 回	4 回	△	6 回	6 回	6 回
		アンケートによる満足度	(1) アンケートの企画・計画策定 (2) 毎年 9 月にアンケート実施 (3) アンケート結果を分析し、翌期経営計画に反映 (4) 上長との定期面談実施	事業統括本部	現状値把握	未実施	×	現状値把握	前年比 1％ 向上	前年比 1％ 向上
CSR 重点項目 地域共生	地域活動への 積極的参加	地域活動延べ参加人数	(1) 年間スケジュールの策定 (2) 社内広報を強化し参加奨励	CSR 委員会	125 名	104 名	△	130 名	140 名	150 名
		地域清掃の実施	(1) 工場周辺の地域清掃を毎日実施 (2) 事務所周辺の地域清掃を毎週実施	工場部門 営業部門	実施継続	一部未実施	△	実施継続	実施継続	実施継続
	情報発信	Facebook での情報発信件数	(1) 毎月の委員会掲載記事を確認 (2) 役割分担をし定期的な発信実行	広報委員会	48 件	3 件	△	48 件	48 件	48 件
CSV リサイクル	リサイクル技術の向上	当社搬入廃棄物 リサイクル率	(1) 中間処理工場における選別の徹底 (2) 分別しながらの荷積み・荷卸しの徹底 (3) リサイクルプラントのバージョンアップを委員会で協議し実行 (4) 社員のリサイクル知識向上 (5) 新規 2 次排出先の開拓	全部門	98.0%	93.3%	△	94.0%	94.5%	95.0%
		分別サポート実施件数	(1) リサイクルを見据えた現場分別サポート実施 (2) 現場分別サポート員の養成	営業部門	30 件	13 件	△	35 件	40 件	45 件
	リサイクル製品の普及	リサイクル製品の利活用量	(1) リサイクル製品の品質向上施策の実施を含めた品質管理体制の構築 (2) マーケティングを実施し販路の開拓・拡大 (3) 建設会社様等への提案	工場部門 営業部門	現状値把握	把握完了	○	前年比 20％ 向上	前年比 20％ 向上	前年比 20％ 向上

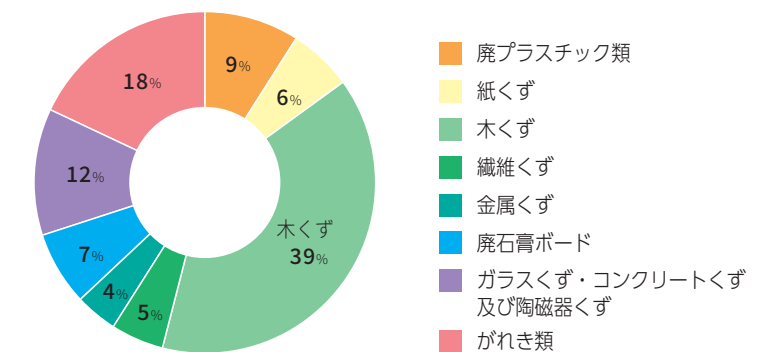
IN_{put}

エネルギー

電気	10,765,918 kWh
軽油	1,821,471 ℓ
ガソリン	53,131 ℓ
水	29,887 m³
都市ガス	26,517 m³

廃棄物

廃プラスチック類	77,459.5 m³	廃石膏ボード	62,585.4 m³
紙くず	53,943.6 m³	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁くず	103,465.0 m³
木くず	339,194.4 m³	がれき類	156,767.3 m³
繊維くず	39,278.1 m³	合 計	863,479.5 m³
金属くず	30,786.3 m³		



収集運搬事業



処分事業



現場分別サポート事業

収集
運搬量

674,580.0 m³



当社処理施設

協力会社処理施設

OUT_{put}

CO₂ 排出量 ※1

20,710.29 t-CO₂

当社処理後廃棄物量

廃プラスチック類	65,169.8 m³	繊維くず	26,652.3 m³	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	50,981.0 m³
紙くず	40,411.3 m³	金属くず	30,672.5 m³	がれき類	153,346.9 m³
木くず	338,513.7 m³	廃石膏ボード	45,411.0 m³		

リサイクル率
※2
93.8 %

※1 エネルギー等起源のCO₂排出量を対象とし、「温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度」にて公表されている情報で算定しております。

※2 リサイクル率＝サマールリサイクル量＋マテリアルリサイクル量／総排出量



社員の安全が確保できなければ、社員の人生はもちろん、光洲産業の未来も描けません。何よりも大切なのは『安全』の確立です。社員の安全をお客様や協力会社様、地域の皆様の安全につなげ、安心を提供していきます。

安全プログラムの実施

光洲エコファクトリーYOKOHAMA BAY内の「安全体感室」を利用した、当社独自の安全教育プログラムを継続して実施しています。

このプログラムは二部構成で、前半は会社の理念を学び、安全の重要性を全員が同じ様に理解していきます。後半は安全体感室の各施設を使用し、危険を肌で感じ安全意識の向上と安全対策の手法を学んでいきます。

隔週土曜日に5名程のグループで終日かけて教育を実施し、2019年度は96名が受講しました。また、このプログラム講師の育成にも力をいれ、来年度はさらなる受講を目指します。



安全パトロールの実施

安全を日常から担保していくために、処理部門と収集運搬部門を対象に定期的に安全パトロールを実施しています。

パトロールは複数のセクションが実施しており、安全衛生グループや工場責任者、お客様のご要望をいつも把握している営業部、安全衛生最高責任者である役員の4つになります。様々な人がパトロールを行うことにより、多くの気づきと改善に繋がっています。

実施結果は安全衛生委員会で共有され、協議を行い段階的に改善していきます。他の拠点の問題点が別の拠点にも当てはまるなど、皆で共有することによって未然防止に繋がっています。

安全パトロール
年間実施回数

31回

毎月2～3回実施

「安全衛生大会」の開催

年に1回、全社員で安全衛生の意識醸成と研鑽を行う「安全衛生大会」を2019年9月16日に開催しました。

第26回目となる今回の安全衛生大会は、安全衛生を含めた当社のESG課題と経営理念・経営方針の繋がりについて理解を深める勉強会と、外部講師をお招きし安全に向けた取組みの心構えについてご講演、安全衛生優秀者や継続無災害グループ表彰を行いました。

安全を確保するには、作業に従事する一人一人が意識を持ち全社一丸となることが重要です。今後は新型コロナウイルス感染症に配慮した開催方法等を工夫しつつ、継続開催していきます。



部門における安全対策

収集運搬部門

ミリ波レーダーとカメラで前方車両の走行状況を検知し衝突回避を促すプリクラッシュブレーキシステムや、常に走行車線をカメラが監視し、逸脱すると警告音が鳴る車線逸脱警報装置など、最新の安全装置を搭載したトラックを新たに13台導入しました。今後は他車両への装置導入を随時進めて参ります。



処理部門

「安全で安心できる職場づくり」という方針のもと、過去の事故事例共有やKY活動の見直しを行いました。そして、自分たちで現場にあった守りやすい作業手順に皆で変えることで、ボトムアップでの働きやすい環境づくり、誰が作業しても事故を起こさない職場づくりを実施しました。



Voice!



安全・安心な環境を全社一丸となって作りあげる

安全の追求という点では、まだまだ道半ばではありますが、活動に終わりはないと考えています。朝礼時のKYTなど日々の活動から、火災訓練や現場の労働衛生改善などの定期的な活動を通じて、社員ならびに協力会社の方々一人ひとりの安全意識を向上させ、全社一丸となってお客様の安全を確保し「ケガをしない・させない」「安全感のある環境」を作りあげていきます。

工場部門 次長 小林 哲也

事業継続計画 (BCP) 策定に向けて

大規模な災害やテロ攻撃等の緊急事態に遭遇した場合に、損害を最小限にとどめつつ、事業の継続や早期復旧を可能にするために日頃行うべき活動や緊急時の対応手順等を定めたものを「事業継続計画 (BCP)」と言います。

近年、日本全国で大規模な地震や水害が多数発生しており、2019年10月には台風19号の影響で多摩川が氾濫し、当社周辺でも

被害が発生しました。これを機に2019年度よりBCP策定に向けての取組みをスタートし、策定にむけた情報収集と計画策定を行いました。

2020年度からは実際のBCP計画をまとめていき、一部耐震等の補強工事を行っていき、社員の安全を守る環境整備を進めてまいります。



光洲産業は社員ひとりひとりの力が集まって、お客様にサービスを提供しています。皆様から信頼され、また光洲産業を選んでいただけるそんな持続的な関係を創るのも社員ひとりひとりです。社会から求められ、愛され、信頼される人財を育てていきます。

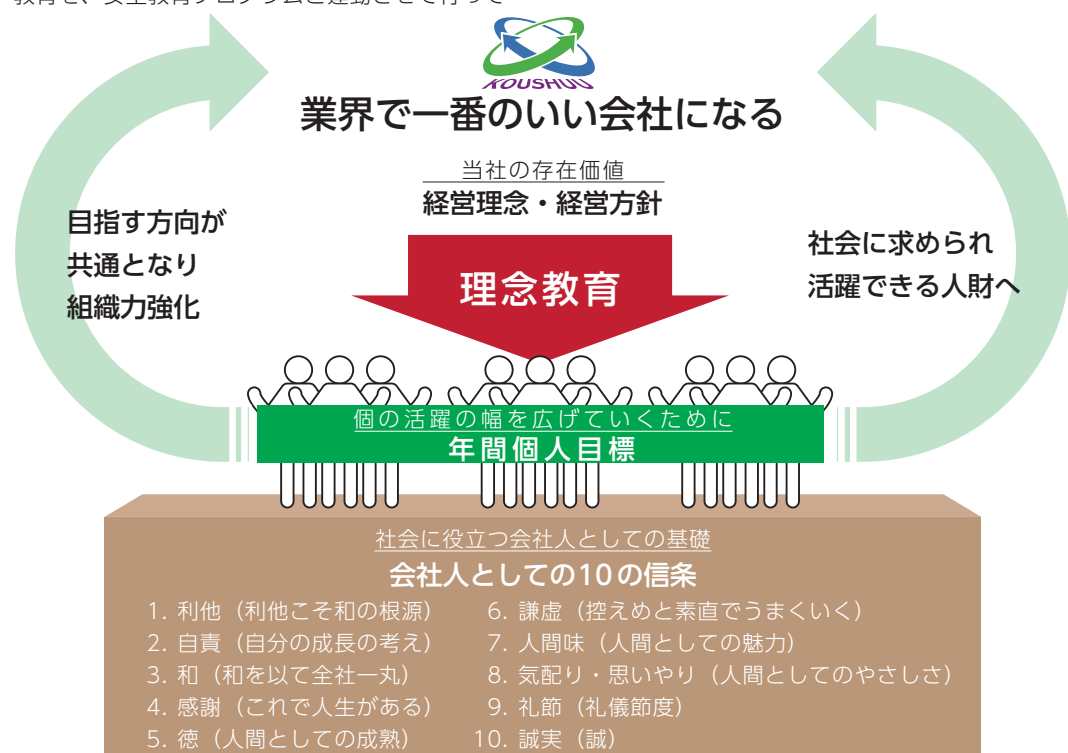
理念教育の実施

社員がいきいきと働き、社会に求められる人財に育むために、理念教育に力を入れています。この「理念」には、当社の存在価値を示した『経営理念・経営方針』、当社の考える会社人としてのあるべき姿をまとめた『会社人としての10の信条』の2つがあります。この一つ一つについて、理解を深め、どのような行動をとっていくべきかを考える理念教育を、安全教育プログラムと連動させて行って

います。

また、自ら考え行動できる人財がステークホルダーとの信頼を育てていくと考え、毎年個人目標を設定し、個のスキルアップを応援しています。

理念教育は、社員のベクトルを合わせてチームワークを高めるために必要不可欠です。今後も当社経営の基盤として、力を入れていきます。



教育プログラム構築

当社では廃棄物の適正処理・リサイクルに関する一連の業務を行っており、様々な職種が存在します。また、会社の目的「社会的責任を果たし、社員の幸せを守り続ける事」を果たすために、人財づくりを重要な経営方針の一つと定めています。

社会から求められ、愛され、信頼される人材を育てていくために、各種教育プログラムを構築しました。社会人・会社人としての基本を詰め込んだ「共通教育」と自分自身のキャリアや職種別のプログラムや廃棄物の適正かつ高度なリサイクルにむけた廃棄物専門の教育プログラムなどの「専門教育」の大きく2つから整理をし、各プログラムの教育内容を精査しました。

来年度からは本格的に運用を行い、より良いものにしていくために改善を図っていきます。

専門教育	階層別 教育プログラム	廃棄物専門 教育プログラム
	管理者向け	廃棄物勉強会
	次世代リーダー向け	処理システム勉強会
	部門別教育プログラム	
共通教育	営業部門	収集運搬部門
	管理・財務部門	工場部門
	理念教育プログラム	安全教育プログラム
	新卒新入社員教育 プログラム	中途新入社員教育 プログラム

部門別教育の実施

大きく4つの部門に分けて、専門知識やスキルを養うための部門別教育を実施しています。それぞれの職種でプロフェッショナルな仕事ができる様、部門ごとに実施する内容や予算を計画立てて実施しています。

収集運搬部門	工場部門
○運行に特化した安全衛生教育 ・事故再発防止に向けた安全教育 ・ドライブレコーダーを活用したヒヤリハット検討会 ○必要資格等の計画的取得 ・石綿取扱作業従事者特別教育 ・小型移動式クレーン、玉掛け等資格技能講習	○関係法令についての教育 ・フロン回収規制の法改正についての教育 ・マニフェストに関わる法律についての再教育 ○安全衛生教育プログラム参加後の独自フォローアップ ○工場における防災訓練 ○随時作業手順の見直しと再教育
営業部門	管理・財務部門
○外部講師を招いての「廃棄物勉強会」開催 ・法改正などの最新情報 ・廃棄物業界の市場動向 など ○若手・中堅・管理者などのキャリア別に スキルアップセミナーに参加 ○加盟団体活動やセミナー参加で得た情報を朝礼時に共有	○管理会計セミナーへの参加 ・管理会計の基礎講座 ・会計上の KPI マネジメント ・戦略的年度予算編成 など ○労務関係法改正セミナーへの参加 ○セミナー参加者による社内勉強会の開催

Voice!



人づくりこそ企業発展の全てである

当社の人財育成は、まず「思い・考え方」の教育からスタートします。その基礎の上に、仕事の中でどう考えたら良いか、行動すべきかを学んでいき、現在と未来の問題を解決できる能力を身に付け、自社だけでなくお客様も含めた企業発展に貢献できる人づくりを目指しています。

この人づくり教育システムの確立を行い、より良い環境で人財育成・仕事ができる会社を目指します。

事業統括本部 部長 小尾 正則



環境産業に携わるものとして、事業活動に伴う環境影響には最大限の配慮を行い、周辺地域の豊かな自然を守っていきます。

ISO14001による環境マネジメント実施

産業廃棄物処理業を通じて、環境保全や資源循環型社会の形成、地球温暖化防止に貢献することを目的に、ISO14001に準じた環境マネジメントを行っています。

2002年の初回認定から17年経ちました。長年の取り組みを経て環境マネジメント体制は定着し

つつありますが、最新の規格であるISO14001:2015版では、より事業活動に沿った環境マネジメントが要求されています。今一度マネジメント体制を見直し、日常的な環境活動を推進していきます。

環境方針

当社は産業廃棄物の処理を行っていることをふまえ、処理業務において生じる環境に与える影響を最小限に抑えるため、下記の通り行動指針を定めます。

1. 当社中間処理工場の立地条件をふまえ、地域環境に与える影響を低減するため、施設の改善及び従業員の教育訓練に努めます。
3. 当社処理業務が地球環境に悪影響を及ぼすことのないよう環境管理を徹底します。
4. 廃棄物処理業者として適正処理に徹し、減量リサイクル率の向上・最終処分量の低減を図り、汚染の予防に努めて参ります。
5. 環境法規制等及び当社が同意するその他の要求事項を遵守します。

以上、行動指針を達成するため具体的な目的・目標を定め、全社一丸となって行動し、定期的に評価見直しを行うとともに環境管理の継続的改善を図ります。
また、この環境方針は全従業員に周知するとともに利害関係者の方々に公表します。

2017年6月1日
株式会社光洲産業
代表取締役 光田 栄吉

エネルギーの適正使用に向けて

施設内のLED照明化

当社中間処理施設や事務所で使用している照明のLED照明化に継続して取り組んでいます。

2019年度には、工場内のLED照明化がすべて完了し、大型照明の省エネが実現しました。残りは本社事務所内の一部のみで、2020年度にはすべて完了する予定です。



省エネ型車両の導入

当社では合計130台以上の車両を保有しており、車両燃料である軽油を大量に使用しています。

運行における環境影響低減へ向けた取組みの一つとして、省エネ型車両の導入を進めています。車両更新時に「平成27年度低燃費基準達成車」を導入基準として定め、随時導入を進めおり、約34%の車両を省エネ型に切り替えることができました。



Voice!



施設改善を着実にを行い目標達成を目指す

私の部署は、リサイクル率向上、最終処分量の低減、そしてエネルギー使用量削減という大きな3つの目的に向けて工場や設備の保全や施設改善業務を行っています。エネルギー使用量に関しては、外部より専門家を招き、「省エネルギーミーティング」を開催し、現場の意見を聞きながら改善方針を定めています。自分たちにできることを着実に実行していき、前年比1%削減という目標達成に向けて日々精進していきます。

施設管理グループ 施設管理第三課 柏木 敦

使用備品のグリーン購入推進

2019年度より、文房具類を中心にグリーン購入を推進しています。備品購入の際に、エコマークが付与されているグリーン商品がないかを検索し、対象商品を優先的に購入しています。2019年は約60種類のグリーン商品を導入し、身近な物から環境配慮ができる取組みとして、今後も活動を推進していきます。

購入したグリーン商品（一部）

- | | | |
|-----------|---------|--------|
| ・ファイル | ・製本テープ | ・ボールペン |
| ・封筒 | ・シャープペン | ・朱肉 |
| ・蛍光ペン | ・ホチキス | ・のり |
| ・消しゴム | ・ふせん | ・カッター |
| ・トイレトペーパー | | など |

環境保全に向けたステークホルダーへの情報発信

廃棄物の適正・リサイクル処理の観点から、ステークホルダーの皆様へ環境保全の意識を少しでも持っていただくために、工場見学や廃棄物研修会の開催を積極的に行っています。

当社の適正処理・リサイクルの流れを座学形式で説明し、その後に実際に工場内で見ていただきます。2019年は昨年よりも約100名ほど多くの方にご来場いただきました。排出事業者様の新入社員研修の一環として採用いただいたケースもあり、「適正

処理やリサイクルに向けて現場での分別を徹底していきたい」といった感想もいただきました。

工場見学来場者数
691名

廃棄物研修会
開催数 **29**回



社員、お客様、協力会社様、地域の皆様など、光洲産業はステークホルダーの皆様があってこそ成り立っています。皆様とのコミュニケーションから光洲産業の道しるべを立て、持続可能な社会へと歩んでいきます。

お客様・協力会社様とのコミュニケーション

お客様や協力会社様があってこそ、当社の廃棄物処理・リサイクル事業は成り立っており、コミュニケーションの機会をつくっています。

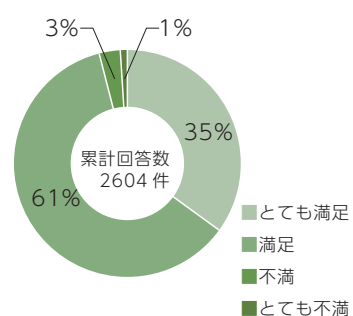
2019年11月8日に第8回目となる「講演と懇親の集い」を開催しました。講演には、環境・廃棄物分野をご専門とする弁護士・佐藤 泉様より廃棄物処理法の最新動向を、株式会社ブレイン・サプライの岡 弘己様より働き方改革へ向けた人材労務管理のススメをお話いただきました。その後の懇親会では、当社へのご要望やご意見などをお話しでき、直接コミュニケーションが図れる貴重な機会となっております。

このイベントと工場視察にお越しいただいた際に、当社に対するご要望をお聞きするアンケートを実施しております。頂戴したご意見は各部門ごとに改善策を協議し、実行していきます。



2019 年お客様・協力会社様アンケート実施結果

Q：当社についての満足度



	頂いた要望	改善
営業部門	現場での対応や提案	・社内ルールとお客様対応マナーの見直しを行い、社内勉強会やロープレで教育を実施
配車部門	迅速な車両手	・運転手を8名増員し、スムーズは車両手配ができる環境を整備
運搬部門	現場内での対応	・1.5t パワーゲート車と専用のメッシュパレットを導入し、狭い現場での分別廃棄が可能に ・現場パトロールを行いドライバー対応力を指導
処分部門	工場内待機時間配	・検品後の連絡方法を見直し、単一品目搬入を優先して荷下ろし ・荷下ろし順番変更時のお客様への連絡徹底

加盟団体活動への積極的参加

持続可能な社会をつくっていくためには廃棄物処理業など業界全体で発展していくことが重要です。当社では、16の業界団体に加盟しており、団体活動に積極的に参加しています。

各団体もしくはその団体内にある部会や委員会に所属しており、それぞれに担当者を定め、定期的にコミュニケーションを図っています。業界で起きている課題に共に耳を傾け、考え、解決に向けての活動を推進しており、業界内でのパートナーシップ形成にも繋がっています。

加盟団体活動述べ参加人数 **52 名**

加盟団体：16 団体

建設廃棄物共同組合	木材資源リサイクル協会
神奈川県産業資源循環協会	神奈川県建物解体業協会
東京都産業資源循環協会	東京都建物解体業協会
千葉県産業資源循環協会	解体システム協同組合
栃木県産業資源循環協会	神奈川労務安全衛生協会
神奈川県産業資源問題政策研究会	川崎北工業会
首都圏情報交換会	安全運転管理者会
神奈川エコネットワーク	高津消防関係団体連絡会

社員とのコミュニケーション

レクリエーションの開催

当社の福利厚生委員会を中心に、社員とステークホルダーのコミュニケーションの機会としてレクリエーションを開催しています。2019年は、多摩川清掃活動の後にバーベキューを行いました。社員とご家族も参加し、普段なかなか会わない社員同士や子どもたちの活発な声が飛び交い、良いコミュニケーションの機会となりました。

今後も定期的な開催を行い、日常業務以外での交流も大切にしていきます。



社内報の発行

年に4回ほど、当社のその時々々の出来事をまとめた社内報「光洲 Company newsletter」を発行しています。

企画から制作まで広報委員会が担当しており、社内行事から同好会活動、お客様や協力会社のご紹介など多岐にわたる記事を掲載しており、制作後は社内回覧や工場内に掲示しています。

複数拠点に分かれて業務を行っていますが、他の拠点や会社全体の活動がわかり、チームの繋がりをを感じる大切なツールになっています。



Voice!

工場運営はお客様・地域の皆様・社員とのコミュニケーションが不可欠



毎日お越しいただいているお客様には、笑顔で来て笑顔でお帰りいただける様に誠実さを基本とした業務実施、地域の皆様とは、町内会イベント等に積極的に参加して対話の機会を増やし、社員とはそのご家族も含めたレクリエーションを企画し、より深い関係づくりを目指しています。

皆様とのコミュニケーションの機会を積極的につくり、もっと良好な関係を築いていきたいと思ひます。

光洲エコファクトリー川崎・宇奈根 工場長 下田 啓一



地域の皆様のご協力とご理解があったからこそ、光洲産業の今があります。
この地域の一員として、積極的に地域貢献活動を行っています。

地域清掃の継続実施

当社のすべての拠点で、日頃より地域美化に貢献するために地域清掃をおこなっています。

各工場では毎朝、本社部門は毎週火曜日の朝に周辺道路の清掃活動を行っています。当社拠点の周辺は当社関係の車両往来が多く、近隣の方のご理解とご協力があったからこそ、事業ができています。そんな日頃の感謝の気持ちを表す活動の一つとして、継続徹底して参ります。



WebサイトやSNSを活用した情報発信

ステークホルダーの皆様へ当社の“今”を発信するために、当社WebサイトやFacebookなどSNSを活用した情報発信を行っています。

2019年度は委員会活動休止期間があり積極的な情報発信ができませんでした。来年度は運用体制や内容の見直しを行い、多く情報発信ができるよう努めていきます。



光洲産業 Web サイト



光洲産業
Facebook ページ

是非「いいね！」をお願い致します



Voice!

地域活動を通じて、地域に認められ必要とされる会社を目指す



当社は、地域清掃などの自主的な活動から、地元町内会や自治体、加盟工業会主催のイベントに参加しており、美化活動やリサイクルを感じていただく工場見学会等を通じて、地域の環境がより良くなることを目指しています。これからも積極的に地域活動に参加し、地域の皆様との交流を深め、そして皆様に認められ必要とされる会社になるよう、精進して参ります。

営業部 営業第二グループ 係長 高瀬 輝雅

地域活動への参加

この地で事業をさせて頂いている感謝の気持ちを表す活動として、地域で開催されるイベント等に積極的に参加しています。

6月 多摩川清掃美化活動に参加

川崎市主催の「第41回 多摩川美化活動」に社員とご家族合わせて90名で参加しました。多摩川美化活動は、「多摩川をきれいに、よごさない、親しまれる川」を合言葉に1979年より長きに渡り開催されている活動です。当社は新二子橋河川敷の高津区会場にてゴミ拾いを実施しました。



7月 高津区民祭に参加

8月 川崎北工業会納涼祭に出展

9月 久地神社清掃

当社本社の近隣にある久地神社の清掃活動に毎年参加しています。社員9名で参加し、町内会の皆様と共に境内の清掃を行いました。

当社は地域のご理解をいただきながら事業を行うことができます。企業ではありますが地域社会の一員として、今後も定期清掃活動に参加していきます。



9月 わが町かながわマナー違反一掃作戦に参加

横浜市主催の「第13回 わが町かながわマナー違反一掃作戦」に共催・参加しました。この活動は、参加者が各地域から清掃活動を行いながら定められた集合場所に集結することで区内の一大清掃を行うキャンペーンです。

光洲エコファクトリー YOKOHAMA BAY に駐在する社員を中心に参加し、工場前から最寄りの新子安駅まで約2kmの道路のゴミ拾いを行いました。普段使用している道路をきれいにしながら地域の方と交流を図れるイベントとなりました。



10月 川崎市植樹祭に参加

11月 ビーチクリーン活動に参加

地域活動参加者数 161名



光洲産業は資源循環型社会形成の起点となるために、広くリサイクルの推進とより高精度なリサイクルを追求していきます。

光洲エコファクトリー横浜・泉 OPEN

2020年6月1日より、横浜市泉区の間処理工場「光洲エコファクトリー横浜・泉」をオープンしました。

この工場は、神奈川県中央部に位置しており、県央・湘南・西湘エリアの現場から効率良く中間処理工場に搬入が可能です。また、併設している積替保管施設「光洲エコスペース横浜・泉」とも連携し、その他廃棄物と一緒に持ち込みいただくことができ、運搬効率向上とCO₂排出量削減に貢献します。

今までの工場と同様にリサイクルの起点となる中間処理の許可を有しており、特に燃料資源としての活用を進めて行きます。



許可内容

中間処理

許可番号：横浜市 第05620004318号
許可品目：廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類
処理の方法：選別、切断、圧縮、溶融

積替保管

許可番号：横浜市 第05610004318号
許可品目：廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず（水銀使用製品産業廃棄物を含む）
最大保管量：1,120 m³

3行程の選別



多くの資源物を取り出す

現場分別サポートの強化

排出事業者様と共に資源循環型社会を構築していくために、排出現場における現場分別サポートをサービス化しております。

当社にて処理契約を締結させて頂いたお客様を中心に、工事内容や現場状況を加味して最適な分別方法をご提案し、工事開始と共に分別ヤードを設置します。工期中には分別パトロールを実施し、分別ヤード全体の整理・整頓状況や分別状況を確認しリサイクルにむけて改善を図っていきます。

2019年度は担当者1名を増員し、サポート体制を強化しました。より多くの排出事業者様のサポートを実施し、リサイクル推進はもちろんのこと、お客様のコンプライアンス遵守にも貢献していきます。



Voice!



現場分別サポートで地球を守る

家族や友人から「どんな仕事をしているの?」と聞かれたときに「地球を守る仕事」と答えていますが、その第一歩は、各現場における廃棄物の分別だと考えております。ゴミではなく資源として再利用するための分別提案を行うことで、資源循環はもちろんのこと、お客様の廃棄コストの削減にもつながります。今後はより多くの分別サポートを行い、より良い環境づくりに貢献していきます。

営業部 営業企画推進課 加々美 裕樹

リサイクル製品の普及

当社で中間処理を行うことが「加工」になり、リサイクル製品に生まれ変わる資源があります。このリサイクル製品をより社会に普及していけるよう、2019年度より活動を強化しました。

リサイクル製品は、木チップと再生砕石と燃料系フラフの計3種です。ユーザーのニーズに合わせた製品づくりを行う事を目的に品質管理部門を設立し、マーケティングと製品開発もスタートしました。2019年は特に再生砕石の品質向上と販売に注力し、約200 m³を社会に還元することができました。



選別機能の強化

全部で4つの処分拠点があり、全ての施設で「選別」の許可を保有しています。機械の力と人の力で選別を繰り返していくことで、より多くの資源を取り出すことができます。

その中でも、廃プラスチック類の分別方法を見直し強化しました。工場内の一角に実物を展示し、資源として活用されるものを実際に見て、今後は、廃プラスチック類だけでなくその他の種類の廃棄物分別方法も見直しを行い、最適な選別方法をアップデートしていきます。触れて学ぶことができるスペースを設けて教育をしています。

